

編集後記・・・

■九号をお届けします。執筆者の皆さんには心よりお礼申し上げます。貞子さん存命中原稿が集まらないうち出版費がかかるこの悩みを聞いていました。何とか無事脱稿出来たことは庵主重朝氏と桐野会長のご指導のお陰と思っています。

貞子さんは歴史家として、渋谷五族下向七百五十年記念事業、七回の入来新能開催、入来文書の解説など後世に残る仕事をしてこられました。本冊子はその延長線上にあるものと理解しています。

年に一度、日頃関心のあることを文に纏めて冊子に発表し、それを肴に一杯飲むと云う趣向は誠に結構な試みだと思えます。何とか続くよう、今後共宜しくお願いします。(中西喜彦)

■九号も、レイアウトとイラスト挿入および印刷所との折衝を担当させて頂きました。冊子としての体裁を整え、誤植などが無いかの最終確認の作業になります。できるだけ読みやすい冊子になるように心がけ、余白が生じたところにはイラストを挿入しますが、イラストが煩わしくなるのも問題です。写真の大ききなども考慮したいと思います。ご意見を頂戴できれば次回に生かされます。(下土橋渡)

■貞子さんの三回忌を前に入来院家の庭の手入れに参加した。合掌してから梅をたたき切ったり竹を切り倒したり、広さ二坪があかないねとため息をついていたら、かねて知り合いの東郷の山のプロたちが草払い機をはじめ機器持参ではせ参じてくれ、朝の五時半からの作業ですっかりきれいになってしまった。

セイダンの編集も中西、下土橋両氏の奮闘で今年も体裁が整った。片隅でウロチヨロしている間に、人生の達人たちが課題を仕上げてくれる。頭が下がるやら舌を巻くやらの日々、今年から丸儲けで娯婆遊び(一茶、よっぴやまくだんまっぴん)。(渋谷繁素樹)

「炬ばたセイ談」 第9号

炬ばたセイ談会会長

桐野三郎

編集担当 中西喜彦・下土橋渡・渋谷繁素樹

事務局〒895-1402

薩摩川内市入来町浦之名130

入来院重朝方

TEL・FAX 0996-44-3586

印刷 新大同印刷株 (0996-30-1811)